

市町村体力向上アクションプラン(令和5年度版)

教委名	日田市 教育委員会		
作成者	職 指導主事 氏名 用松 孝志	所属 学校教育課	TEL 0973-22-8326

1 体力の状況

ア 令和4年度体力・運動能力等調査結果(県調査)

・小学生

R4年度の測定平均値がR3年度全国平均値を上回った項目数

日田市 49/96項目【男子23項目・女子26項目】、大分県 62/96項目【男子33項目・女子29項目】

*日田市平均値が全国平均値を上回った項目数は、R3年度から4項目減った。(R3:54→R4:49)

・中学生

R4年度の測定平均値がR3年度全国平均値を上回った項目数

日田市 8/48項目【男子6項目・女子2項目】、大分県 17/48項目【男子11項目・女子6項目】

*日田市平均値が全国平均値を上回った項目数は、R3年度と同じ。(R3:8年度8→R4年度8)

イ 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

○総合評価C以上の児童生徒の割合

△小学5年生△・男子 日田市73.1%(大分県75.8%・全国74.8%)、女子 日田市68.8%(大分県81.5%・全国79.7%)

△中学2年生△・男子 日田市70.8%(大分県73.8%・全国79.9%)、女子 日田市85.3%(大分県86.7%・全国91.7%)

*R4年度は小中男女すべてで総合評価C以上の割合は全国・県を下回った。

○生徒・学校質問紙調査結果

*運動やスポーツをすることが好き・やや好きの割合

△小5 男子…92. 9%(全国90. 8%) 女子…83. 7%(全国82. 9%)

△中2 男子…91. 9%(全国88. 5%) 女子…80. 9%(全国78. 9%)

*運動・スポーツの実施状況が「月1~3日」「しない」の割合

△小5 男子…9. 3%(全国8. 8%) 女子…13. 9%(全国11. 0%)

△中2 男子…3. 9%(全国6. 7%) 女子…10. 8%(全国12. 8%)

△当該市町村の児童生徒の特徴的な様子

○県体力運動能力等調査によると、運動部に所属している中学生男女の割合は県平均を上回っているが、「ほとんど毎日運動している」割合は小学校男子・中学校男女が上回った。

○生活習慣の「朝食を毎日食べる」割合は小男・中男女が県平均を下回り、「テレビ等の視聴時間が1日3時間以上」の割合はすべて県平均を上回っている。また「学校が楽しい、やや楽しい」という割合は小学女子において県平均を上回る結果となった。

令和4年度の指標

達成指標

○全国平均値を上回る項目数の割合

△小学校 (男子60%・女子60%)

△中学校 (男子50%・女子50%)

○総合評価C以上の児童・生徒の割合

△小学校 (男子80%・女子85%)

△中学校 (男子75%・女子90%)

○運動することが好きな児童・生徒の割合

△小学校 (男子75%・女子60%)

△中学校 (男子70%・女子55%)

取組指標1

○調査に基づく市と自校の課題を解決するための効果的な「一校一実践」に取り組む学校の割合が100%

【市の課題】小中学校とともに「50m走」

取組指標2

○児童会や生徒会主体の体育的活動を学期に1回以上取り組む学校の割合が100%

○全ての小中学校において、市統一指標として「体力向上プラン」に位置づけ授業実践の工夫・改善に取り組んだ。

【総括】

・県調査において「運動することが好き」の割合は、小中学校男子が大分県の割合を上回り、中学校女子は県と同等、小学校女子は県を下回った。短時間で取り組めるゲーム性のある体育活動を中心に取り組みことや児童生徒が主体となる活動に取り組んだ成果であるといえる。今後は小中学校の女子の運動好きの割合を高めるための方策や、運動が苦手な子も楽しんで活動できる工夫が喫緊の課題である。

・体力運動能力では、R1年度以降、全国平均を上回る項目数は全校男女ともに減少傾向にある。特に「50m走」に課題があるため、走力及び持久力の向上のため日常の体育授業や「一校一実践」の取り組みを充実させる必要がある。

・生活習慣アンケートでは「朝食を毎朝食べる」の割合は県を下回り、「テレビ等の視聴が3時間以上」の割合が県を上回った。今後栄養教諭派遣を含む食育の充実や、家庭や保護者の協力を得ながら生活習慣の改善を図る取り組みが必要である。

3 令和4年度の取組状況

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

① 教育委員会

- ・体力・運動能力等調査の結果を分析し、市全体の課題や改善策、市内統一した重点項目を校長会等で提示
- ・日田市シングラントシステムにおいて体力向上に関する各校の取組事例の共有
- ・各学校の体力向上にかかる課題の把握と、「一校一実践」の取組に対する指導・助言(提出時、学校訪問時)
- ・R4年度体力・運動能力等調査結果による市の実態検証と各学校の検証

② 各学校

- ・バランスよく運動能力を育成するために、R4年度体力・運動能力等調査結果に基づいて、市や自校の課題を解決するための効果的な「一校一実践」の実施及び検証を行った。
- ・運動に興味・関心を引き出すための工夫をするとともに、校内の体育環境の整備を行い、運動の「時間」「空間」「仲間(集団)」の創出を行った。
- ・ホームページ及び日田市シングラントシステム上に体力向上プラン(一校一実践)を掲載し、各学校での取組充実を図った。
- ・児童・生徒の学ぶ意欲が高まる魅力ある授業を実践するとともに、児童会や生徒会が主体となる日常活動や全校・学年レクリエーション等体育的活動を実施し、運動の愛好度を高めるための取組を充実させた。
- ・中学校において、部活動の目標設定や合同練習など、活動意欲向上を図り、活性化させた。

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

① 教育委員会

- ・体育専科教員の実践事例や指導法の充実を全市的に広げ、教員の指導力向上と体育環境の充実につなげた。
- ・研究指定校(体育専科教員活用校・体力向上推進校)の実践例や研究成果を日田市シングラントシステム上に提示し、周知を図った。
- ・各学校への栄養教諭の活用依頼と派遣による食育の充実を図り、朝食をとることや好き嫌いをなくすことを指導するなど児童生徒の生活習慣の改善を促進した。
- ・新型コロナ対策として、国の衛生管理マニュアルや県の各種通知、市内学校における段階的指導例に基づき、体育的活動ができるよう各校に指導した。

② 各学校

- ・校内にてミドルリーダー的存在を体育主任に充て、体力向上プランに基づいた組織的な体制づくりと校内研修の充実に向けて取り組んだ。
- ・管理職のもと、教務主任や体育主任、部活動主任が中心となり、体力向上推進委員会を組織し、体力向上プランをホームページ及び日田市シングラントシステム上に掲示
- ・児童・生徒が主体的に取組み、学ぶ意欲が高まる魅力ある授業づくり
- ・運動のコツをつかませるために分かれる「できる」「楽しい」を実感できる授業づくり
- ・新大分スタンダードに基づく1時間完結型授業の確立

- 運動への愛好度を高めるための体育的活動の設定と内容の工夫
 - ・運動の得意な子も苦手な子も誰もが運動の楽しさを味わえる体育的活動の実施
 - ・「日常的・繰り返し」「短時間」「ゲーム性」をキーワードとした体育的活動の実施
 - ・児童会や生徒会が主体となる全校・学年レクリエーション、同年齢・異年齢集団での体育的活動の実施

- 中学校における部活動の時間の活用
 - ・校内活動時間の共通目標の設定や、トレーニング方法の学習などによる活性化
 - ・1人1台タブレット端末やICTの活用を通じた体育的活動の工夫

4 課題(令和5年度に向けて)

1. 体力の状況について

- ・小学校について、日田市平均値がR3年度全国平均値を上回った項目数は、前回と比べ男子が3項目、女子は2項目減った。項目別では、「50m走」「反復横とび」に課題がみられる。
- ・中学校について、日田市平均値がR3年度全国平均値を上回った項目数は、前回と比べ男子が1項目増え、女子は1項目減った。項目別では「上体起こし」「ボール投げ」「シャトルラン」「50m走」に課題が残った。
- ・小中ともに「50m走」については日田市の平均値がR3に比べR4では2/18学年が上回ったものの、県平均と全国平均を下回っており、前年度に引き続き「走」運動を意識した授業実践を推進する。
- ・総合評価C以上の割合は、小学校において男子2/6、女子4/6の学年が上回り、その学年は小4男子、小6男子及び小1女子、小2女子、小4女子、小6女子である。一方、中学校においては全国の割合を上回った学年はなかった。

2. R4年度の取組の検証について

- ・「運動することが好き・やや好き」の割合は小中学校男子が全国平均値以上であった。市独自調査による運動の愛好度も小学校男女で89.9%、中学校男女で90.9%が肯定的な回答をしており、愛好度は高まっている傾向にあるといえる。
- ・「50m走」(走力)、「シャトルラン」(持久力)、「反復横とび」(敏捷性)に課題があることから、それらの改善を図る取組が必要である。日常の体育授業の改善に加え、運動の苦手な児童生徒も楽しみながら自主的に取り組めるよう、ゲーム性や継続性を重視した実践の工夫が引き続きの課題である。
- ・すべての学校において「一校一実践」に取り組んでいるが、各校においてその検証を行うとともに、ICTの効果的な活用や、運動のコツをつかませる授業実践、児童生徒が主体となる自主的・自治的活動の促進を図る。

3. 令和4年度の取組状況について

- ・小学校において市平均値が全国平均値を上回る項目数が平成30年度まで上昇していたが、令和1年度以降小中男女ともに減少する傾向にある。しかしながら、体育専科教員の活用については効果的に実施できおり、訪問連携校においては、体育の授業改善や児童が主体的に体育的活動に取り組む実践が推進された。更に本事業を継承・発展させることで市全体の向上を図りたいと考える。
- ・中学校においても前年度同様項目数はすべて下回ったものの、運動が好きな生徒が全国平均を上回っていることを踏まえ、体力向上に自主的に取り組むための指導の工夫を推進していくたい。
- ・上記課題解決のため、自校の課題把握を踏まえた体力向上プラン「一校一実践」の作成・実践・検証を推進する。

5 令和5年度の目標及び指標

【目標】

- 全国平均値を上回る項目数の割合を高める。
- 日田市の課題である「走力」について、年間2回の調査を全小中学校で実施する。
- 総合評価C以上の児童・生徒の割合を高める。
- 「運動が好き」な児童・生徒の割合を高める。

達成指標

取組指標

- 全国平均値を上回る項目数の割合
 - △小学校 (男子50%・女子55%)
 - △中学校 (男子35%・女子20%)

- 「50m走」の全国平均値を上回る学年の割合
 - △小学校 (男子20%・女子20%)
 - △中学校 (男子20%・女子25%)

- 総合評価C以上の児童・生徒の割合
 - △小学校 (男子75%・女子80%)
 - △中学校 (男子75%・女子90%)

- 運動することが好きな児童・生徒の割合
 - △小学校 (男子75%・女子60%)
 - △中学校 (男子75%・女子55%)

6 令和5年度の行動計画

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

① 教育委員会

- 市全体の課題や改善策、市内統一した重点項目の設定
 - ・体力運動能力等調査の結果を分析し、校長会、体育主任会議で提示
 - ・教職員の意識改革や指導力向上の促進
 - ・体育主任会議の実施(2回)
 - ・体育推進教員の積極的な活用推進
- 各学校の体力向上に係る課題の把握と「一校一実践」の取組に対する指導・助言(提出時、視察時)及び検証促進
 - ・学期ごとの独自アンケートによる取組の把握
 - ・部活動検討委員会による運動部活動の在り方の検討
 - ・運動部活動の課題の共有と、効果的な部活動の在り方について今後の方針を検討

② 各学校

- バランスの取れた運動能力の育成
 - ・市及び自校の課題解決を図るための市のアクションプランと運動させた効果的な「一校一実践」の実施
 - ・校内の体育環境の整備による運動の「時間」「空間」「仲間(集団)」の創出
 - ・体力向上プランをホームページ及び日田市シングラントシステム上に掲示
- 児童・生徒が主体的に取組み、学ぶ意欲が高まる魅力ある授業づくり
 - ・運動のコツをつかませるために分かれる「できる」「楽しい」を実感できる授業づくり
 - ・新大分スタンダードに基づく1時間完結型授業の確立
- 運動への愛好度を高めるための体育的活動の設定と内容の工夫
 - ・運動の得意な子も苦手な子も誰もが運動の楽しさを味わえる体育的活動の実施
 - ・「日常的・繰り返し」「短時間」「ゲーム性」をキーワードとした体育的活動の実施
 - ・児童会や生徒会が主体となる全校・学年レクリエーション、同年齢・異年齢集団での体育的活動の実施
- 中学校における部活動の時間の活用
 - ・校内活動時間の共通目標の設定や、トレーニング方法の学習などによる活性化
 - ・1人1台タブレット端末やICTの活用を通じた体育的活動の工夫

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

① 教育委員会

- 体育専科教員の活用方法の工夫
 -